



これからの しぶたね



試行錯誤で10年歩いてきたしぶたね。あらためて10年間を振り返り、次の新たな一步を踏み出す先を考えています。こんなことできたらいいと思うこと、こんなことあったらいいだろうと思うこと、どちらも山ほどあるのですが、あせらず、また一歩ずつ…。たとえば、こんなことを考えています。

きょうだいを病気で亡くした子どもへのサポート

2年前、「きょうだいさんのための本—たいせつなあなたへ—」をつくりました。この冊子をつくった時から、次の「きょうだいさんのための本」は、たいせつな兄弟姉妹を見送らなければならなかった子どもたちに渡すものをつくりたいと思っていました。

きょうだいは、「お母さんとお父さんが心配だから」と、自分の悲しさや苦しさを後回しにして、「お母さんが泣かないようにしなくて」「亡くなった兄弟姉妹の分もがんばらなくては」と、不安定な土台の上でがんばらざるをえない状況になる子がたくさんいるように感じています。そんなきょうだいたちに、あなたは何も悪くないよ、泣いても笑ってもいいんだよ、話したい時には亡くなった兄弟姉妹のこと話していいんだよ、と伝えられるもの、伝えられる場を、つくっていきたくと思っています。

10周年のイベントを開いた時に、初めて子どもたちの前で「しぶたね」をつくった話をしました。子どもたちにもわかりやすいようにと紙芝居をつくったのですが、この話をする時に代表の弟の話は避けられず…。弟が死んでいるということ子どもたちがどう感じるかなと最初は不安でしたが、描いてみたら自然と絵と言葉が浮かびました。「私には、天国に弟がいます。すぐに会うことはできないけれど、心がつながっているからだいじょうぶ。」。悲しさや寂しさがなくなることはないけれど、小さなきょうだいさんたちがいつか「だいじょうぶ」って思えるように、心の中の亡くなった兄弟姉妹と一緒にキラキラと輝いていられるように、ゆっくり時間をかけて、そっと隣にいらさせてもらえるようになるとういと思います。

学校の先生にきょうだいさんの味方になってほしい

小学生のきょうだいさんが多くの時間を過ごすのは、お家と、病院と、それから学校だと思っています。子どもにとって学校で過ごす時間はとても重要で、先生の存在がきょうだいさんの生活や人生にとって大きな影響があることをきょうだいさんや親御さんとお話の中から教わってきました。

きょうだいさん自身が病気でなく、心のつらさに気づいてもらいにくかったり、病気のきょうだいのことでお友達から意地悪なことを言われたり、病気の子の入院に合わせてきょうだいの生活スタイルに大きな変化があって勉強に集中できなかったり、親御さんが学校行事に来られなかったり、励まされすぎて苦しくなったり…。逆に、先生が自分の気持ちをわかってくれている、見守ってくれていると感じられることは、きょうだいさんにとって大きな支えになります。親御さんから、きょうだいさんのこんなところを少し気をつけて見守ってほしいと思うことを先生に伝えやすいツールがあるとういと思っています。

きょうだいさんの学校の先生に知っておいてほしいことをまとめたプリントのようなものがあったら便利なのではと思って構想中です。これはまだまだ試作ですが…こんな感じのものをつくって、ブログからダウンロードして書き込んで使えるようにできたらいいなと思っています。

いつもきょうだいさんの支えになってくださり、ありがとうご"ざいます。このプリントは、病気の子ども
きょうだいのサポートをしているボランティアグループが作成、配布しているものです。

病気の子ども
きょうだいは
こんな気持ち
をもちやすいと
言われています

孤立感

「どうして僕の家だけきょうだいが病気のかな」「だれも自分のことは見てくれない」「自分なんかいなくなったらいい」

心配

「きょうだいの病気が治るのかな?」

罪悪感

「自分のせいできょうだいが病気になるのかも…」「自分だけ学校に行ったりあそんだりしていいのかな…」

不安

「これからの生活どうなるのかな」

がんばるための「安心」の土台や燃料が足りないままがんばりすぎている子どもも多いです

うちの子の場合は、こんなことを感じているようです

大きくなったきょうだいさんがこんなことを話してくれています

先生や友達に病気のことを聞かれても、わからなくて…答えられないのがつらかった

自分はしっかりしてないだめなんだって学校でもいつも気が抜けなかった

病気のきょうだいのことを作文に書くよう言われるのがいやだった

お兄ちゃんが死んじゃったらどうしようっていつもこわかった

家の中がバタバタしていて、落ち着いて宿題したりわからないところを聞いたりできなかった

こんなことも話してくれています

先生が、2人きりの時「がんばってるね」って言ってくれたのがうれしかった

学校で友達とあそぶ間はつらいことも忘れられたよ

先生が「困ってることはない?」ってときどき声をかけてくれたんだ

先生も友達も、病気のことが自然に接してくれたので学校にも行きやすかった

子どもひとりひとり、性格やおかれている状況などによって悩みごとはそれぞれです。もしマイナスな発言や行動をした時は、頭ごなしに否定したり助言する前に、言葉や行動の奥の気持ち、その子が背負っているものを知っていてあげてください。誰かが見ていてくれたこと、しんどさやがんばりを認めてくれたことは、きょうだいさんにとって大人になってからも大きな支えになります。あたたかな見守りをお願いします。

うちの子の場合は、こんなところを見守っていただけたらうれしいです。